

第 10 回聖籠町教育委員会定例会 議事録

日時：令和 7 年 10 月 27 日（月） 9 : 30 ~

場所：聖籠町役場 3 階 第 2 会議室

委員出席者

近藤朗教育長、佐藤政志委員、佐久間千都委員、高橋真弓委員、高橋恵委員
事務局出席者

小林裕之教育未来課長、宮澤徳昭社会教育課長、宮澤孝也図書館長、

小林和浩子ども教育課長、大野義史子ども教育課長補佐（書記）

○近藤教育長

これから令和 7 年第 10 回聖籠町教育委員会定例会を開催いたします。

では、会議録署名委員の選出をお願いします。

○小林子ども教育課長

本日の議事録署名委員は佐久間委員にお願いいたします。

○佐久間委員

お願いします。

○近藤教育長

よろしくお願いいたします。それでは行政報告をいたします。

- ・総合計画について
- ・部活動地域展開について
- ・教育の日の集いについて
- ・9 月議会定例会一般質問について

以上ですが、皆さんの方から何かご質問等ありますでしょうか。

○近藤教育長

はい。よろしいですか。

では、4 番、定例報告に入ります。子ども教育課長お願いします。

○小林子ども教育課長

- ・視察対応について
- ・学校給食費の収支状況について

○近藤教育長

今ほど説明がありましたが、いかがでしょうか。

○高橋（真）委員

はい。誕生祝い金とコドモンについてどんな内容の質問があったのでしょうか。

○小林子ども教育課長

誕生祝い金については、町の制度がどういうものなのか、あとは執行状況について質問されています。誕生祝い金制度は、聖籠町に限った話ではなく、似たような制度が全国的にたくさんあります。この誕生祝い金制度について、今後どういうふうに考えていくべきかというのを聞かせてもらいたいというようなことでしたので、全国的な動きを調べてお伝えしようかなと思っています。特に誕生祝い金制度については縮小している自治体もありますが、逆に拡大している自治体もあり、それぞれの考え方に基づくものとなっているので、一般的なお話しかできないと思っております。コドモンについてですが、幼稚園や認定こども園に通っている園児の保護者の方と園の職員との間で情報の連絡ができるシステムとなっています。どういった使い方をしているか、どういったメリット或いはデメリットがあるかということを教えてもらいたいという内容です。

○高橋（真）委員

わかりました。

○近藤教育長

その他いかがでしょうか。

○高橋（恵）委員

はい。コドモンについてですが、出欠の連絡や連絡帳とか、いろんなことで園からのお知らせとかお手紙みたいな配信もこのコドモンからできるアプリです。

○近藤教育長

小中学校で言えば、すぐーるのようなものですね。

○近藤教育長

では、続いて教育未来課長お願ひします。

○小林教育未来課長

・実績報告について

- ・実施計画について
- ・9月の勤務状況について
- ・教育の日の集いについて

○近藤教育長

今ほど説明がありましたが、いかがでしょうか。

○高橋（真）委員

はい。質問ですが、フレンドルームの登録数が増えたという話ですが、平均で何人ぐらい利用しているのか教えてください。

○小林教育未来課長

正確な数字はすぐにはお伝えできませんが、登録している子どもが毎日いるということではありません。日誌をつけていて、この日は誰が利用して、どんなことしてたかというのは記録として残っております。

○高橋（真）委員

わかりました。

○近藤教育長

その他いかがでしょうか。

○佐久間委員

すいません。フレンドルームの登録数について蓮野小学校とそれ以外の山倉小学校、亀代小学校、聖籠中学校との違いというのは把握してるんでしょうか。

○小林教育未来課長

異なる要因は正確にはお伝えできないのかもしれませんけれども、聖籠町では教室になかなか入れない子に対して、フレンドルームのように学校以外に子供が学ぶ場所を作っています。もう一方では、学校の中にも SSR といって、教室に入りにくいけれども学習するための部屋があり、選べるようになっています。教室の方で出来るのであれば、フレンドルームでなくてもいいということで、意向に沿って、フレンドルームの方を紹介しているということです。

○佐久間委員

はい。蓮野小学校には SSR がありますが、他の学校にはないということですか。

○小林教育未来課長

他の学校にもあります。ですので、本当になかなかこう教室に行けない子にとっては自分で選ぶっていうことがやっぱり大事になってくるので、こっちがいいからここに行きなさいではなく、学ぶ場所がこんなところがあるけど、どこに行くというようなアプローチをして、自分で選んで、あとは保護者の方と了解を得ながら、場所を選んで進めていくというような形で進めております。その結果が表の通りということになるかと思っております。

○佐久間委員

はい。わかりました。ありがとうございます。

○近藤教育長

その他にいかがでしょうか。よろしいですか。
では、続いて社会教育課長お願いします。

○宮澤社会教育課長

- ・実施報告
- ・実施計画
- ・これから事業・イベントについて
- ・部活動地域展開について

○近藤教育長

今、スポーツ庁の資料等を出しましたが、これを次回皆さんからいろいろご意見を聞くという形で、今回は説明に留めておくという考え方もありますし、もうここで、自分の考えを出せますよということであれば、ただその決定というものは、また町の方で検討させていただく中で決めていくかと思いますが、いかがしましょうか。

○佐藤委員

ちょっと思いついたところで、多少の経験がある上でのかなり直感的なお話をなんですが、こういうものは当然、国は全国の水準で、一番汎用性のあるやり方で言う、当然そうなりますよね。特に特定の地域に偏ったものではなくて、全国レベルで言うので、どうしてもばやっとしたあるいはある意味では大枠的な言い方にならざるを得ないですけど、地域、ローカルの方に行けばいくほど実情があるわけで、例えば国は多様性を求めて子どもたちに色々なスポーツをと言いつつ、例えば聖籠中学校の野球部の話となったときに、あなたたちは別に勝敗はいいんだよと、楽しみなさいよと言ったときにそれは受け入れられるのか。しかも中体連は大会がある。大

会があって、上位の大会があって勝ち抜かなければ、それは先に進めないわけで、エンジョイしながら部活をやって、勝ちたいという子たちも楽しみながらやりましょうというのは、やっぱり実態に合わないのかなという気がします。

結論から言えば、当然部活とか地域展開のところ、「認定地域クラブ」は一律な方向性ではなくて、その種目によって多少個性が出ざるを得なくなるのではないでしょか。もしくは、例えば野球を例に取れば、エンジョイする野球と、勝負にこだわる野球の2つ、そんな2つができるのが一番良いんですけど。できなければ、実態に合った地域クラブをとりあえず1つ立ち上げるというのが現実的で、例えばもう少しエンジョイでもいいんだっていう子が、例えば卓球はエンジョイでいいんだよ、本当に楽しくしたいよっていう子が多いんであれば、それはエンジョイの方でいいんですけど、その代わり、悪いけど勝敗については、その子の持った特性がたまたま花開けば結果が出ますし、エンジョイでやっていて、どうしてもやっぱり力量は高まらないわけですから、勝負の世界はそんな甘くないと思うんですけど、それはもう負けていいんだと。そういうのが前提であれば、その卓球部は例えばエンジョイの方向に行けばいいし、1つにはおそらくまとまらないんじゃないかなと。最低でも二つ、ある程度高みを目指すクラブとエンジョイするクラブというのが複数の基準が出ざるを得ないんじゃないかなというのが直感的に思います。以上です。

○近藤教育長

その他いかがですか。

○高橋（恵）委員

佐藤委員の意見と一緒になんんですけど、私の考えは、部活はもう勝つために一生懸命やるというのが基本なんじゃないかなという考え方です。例えば、その色々なスポーツをやれる環境があるならば、それぞれの部活にポンと遊びに行ってもいいっていうシステムなのか、例えば今日はこれをやる、明日はこれをやるという何でもありの部活ができるのかみたいな、何かその辺で、どういうやり方になるのかなっていう、難しそうかなっていう感じがします。

○近藤教育長

ありがとうございます。その他、いかがですか。今ご意見いただいた委員の方もいらっしゃいますけれども、また引き続き次回の定例会時にこういうふうに思うとかいうのがありましたら、その時点でもう出していただければと思います。

○高橋（真）委員

質問です。高校では部活動はどういった感じかという部分をよろしいでしょうか。勝ちに行くという感じなのか、部活は自由なのか、中学校の部活が繋がっていくの

でしょうか。

○宮澤社会教育課長

二分しているのかなという気がします。部活の競技種目によって、上を目指していく、ある程度のところでエンジョイなのか、そこはやはり学校によって力の入れ具合が違うと思います。

○高橋（真）委員

はい。

○近藤教育長

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、次に図書館長お願ひいたします。

○宮澤図書館長

- ・事業実績及び予定について
- ・利用状況について

○近藤教育長

はい。今の説明についていかがでしょうか。

○佐藤委員

はい。単純な質問と、それからちょっと教えてください。9月の入館者数6,942人の中に図書フェスの入館者数1,517人というのは含まれていませんか。

○宮澤図書館長

これは含まれております。

○佐藤委員

含まれていて、6,942人ということですね。つまり、1日の入館者がほぼ9月の入館者数の4分の1と考えていいですか。

○宮澤図書館長

はい。そうなります。

○佐藤委員

もしかしたら除いてるのかなと思ったので確認しました。それから2つ目ですけ

ど、今回初めて図書フェスを計画したということですけど、例えば一昨年だと周年行事で、著名の方を呼んできたという理由がありましたが、今回のこの図書フェスというのは何か始められた理由があるんですか。

○宮澤図書館長

過去に屋外イベントを実施してきましたが、それを少し発展させて会場を図書館そのものにして実施しようということで始めたということです。そういう意味では初めてのイベントということになります。

○佐藤委員

はい。私も当日少しだけですけど参加させていただいて、とてもいいイベントだなというふうに思いました。天気の影響もありますけど、食べ物もあったり、それからちょっとしたフリーマーケットみたいなものがあったり、行政的にはなかなか大きい拡大ってなかなか出来にくい。安定的に実施するんだけど、なかなか思い切ったことできないというか、予算もあり、負担もありますので、でも図書館の方が実施してくださったという意味でとても良かったなっていうことを思いました。

ある会で、聖籠町のいろんなデータがある中で、やっぱり賑わいの創出というのが、少しやっぱり聖籠町は弱いですねという話をさせてもらって、その時に、今回の図書フェス、町民会館のスポレクもそうなんですけど、一過性といえども、こういったイベントの数をしっかり企画していただくと、聖籠町の賑わいは少しよくなるのではないかなど。箱物ってなかなか大変だし、大規模商業施設を呼ぶというのも大変なので、今できるところで賑わいを少しずつ創出してもらうのがすごく私は聖籠にとっていいのではないかと個人的に思っていて、可能であれば来年も継続してもらいたいと思っています。図書フェスのようなイベントが図書館のとても気持ちのいいところで、毎年開かれて少しずつこうパワーアップしていくとよりいいなというふうに個人的には思います。

○宮澤図書館長

はい。ありがとうございます。おっしゃっていただいた通りなんですね。イベントもそうなんですかけども、我々図書館としては特に用はあるわけじゃないんですけども寄ってみようか、あるいは今年みたいに酷暑の時は単純に涼みに行こうかでもいいので、要は手軽に寄れる場所として図書館を育てていきたいなというコンセプトを持っております。そういう意味ではイベントもそうなんですけども、これからそのイベントを大きくしていくっていうことになりますと、やはりだんだん良くなっていく方向にやっぱり持っていくたいと考えています。今、出店の方でいろいろアンケートも集めて集計しておりますけれども、非常に想定以上の売り上げをてきたよっていう方もいればですね、手づくりのものを売って、もうすごく喜んでも

らったってことで喜んでいただいた方もいらっしゃったりしましたし、また先ほど触れましたように、その大きなイベントを行うのであればそれだけの人、こちらとしての対応する人数も必要となること。それだけの人が来れば、本の貸し借りも増えますし、カウンターが非常に混んだので、ちょっと対応できるのかなという不安がよぎったところもありました。そういうた人員の体制も必要になりますし、ただこのイベントについては、おっしゃっていただいたように、毎年行いたいという形で、我々の中では目指すところでありますし、今後ともこういったものを毎年、楽しんでいただけるイベントとして、育てるような形で持っていければ非常にいいなというふうに思っておりますので、そういうふうな形で、努力していきたいと思います。ありがとうございます。

○近藤教育長

他によろしいでしょうか。

○高橋（恵）委員

はい。図書フェスについてなんんですけど、私もちょっとだけ見に行ってすごくいいなと思ったのと、あと媒体というかそのお知らせに関してすぐーるを使って配信したのとか、そこもすごい子どもが多かった要因になったのかなと思いました。

○宮澤図書館長

ありがとうございます。すぐーるは本当にありがたくて、保護者の皆さんにこういったイベントがありますよというふうなお知らせをさせていただくのには非常に便利なツールだなということで私ども非常にありがたく思っています。

図書フェスを機会に初めて来たという方も結構いらっしゃいましたし、来ていただく方はその行事そのものは知らなかったんですけども、ここなんか賑やかだけど何やるんですかみたいな方もいました。そういう意味で、非常に成功だったかなというふうに思っております。ありがとうございます。

○近藤教育長

はい。

○高橋（真）委員

私も家が近いこともあります、以前から参加してましたが、今回、キッチンカーが初めてだと思うんですが、とてもいいなと思いました。来年もぜひ出来るといいなと思います。よろしくお願いします。

○宮澤図書館長

ありがとうございます。頑張ります。

○近藤教育長

よろしいですか。人員の話が出てましたけれども、社会教育課の方の地域学校協働本部の方たちに呼びかけて、そういう方々が図書の貸し出しがいの無理かもしれません、イベントとかそういうところは慣れてる方が結構大勢いるわけなので、そういうところでの協力体制を構築していただけたらと思います。

○宮澤社会教育課長

承知しました。

○近藤教育長

他によろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。

では以上で定例報告を終了いたします。5番、その他ですが、何かございますか。

○小林子ども教育課長

はい。次回の定例会ですが、11月25日（火）午前9時半から開催したいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員全員

大丈夫です。

○近藤教育長

はい。では、以上をもちまして令和7年第10回聖籠町教育委員会定例会を終了いたします。お疲れ様でした。

上記のとおり、令和7年第10回定例会の会議録に相違ないことを証明する。

令和7年10月27日

教育長

委員